



ハンガリーにおけるアフリカ豚コレラの発生に伴う飼養衛生管理基準遵守の徹底について

ハンガリーの野生のいのししにおいて、アフリカ豚コレラの発生が確認され、ヨーロッパを中心に感染が拡大、ロシアでは東部へ拡大しており注意が必要です。また、発生の原因は、不法に持ち込まれた畜産物と考えられています。豚・いのししの飼養者の方は、

「伝染病発生国への不要不急の渡航を避ける」

「食品残渣を使用する場合は、加熱等の適切な処理を行う

(70℃以上で30分間以上または80℃以上で3分間以上)」

など飼養衛生管理基準の遵守を徹底し、伝染病の国内への侵入防止に万全を期すようお願いいたします。

アフリカ豚コレラとは

原因：アフリカ豚コレラウイルスは豚やいのししに感染する伝染病であり、発熱や出血性病変を特徴とする。豚コレラと違い、これまで日本においての発生はない（豚コレラは平成19年4月1日に清浄化）。

症状：症状は多岐にわたり、甚急性では突然死亡、急性では発熱(40~42℃)、食欲不振、粘血便（ねんけつべん）を呈し、死亡率は100%に近い。

ワクチン：なし

治療方法：なし（日本では感染及び感染が疑われる豚は法律に基づき殺処分される）



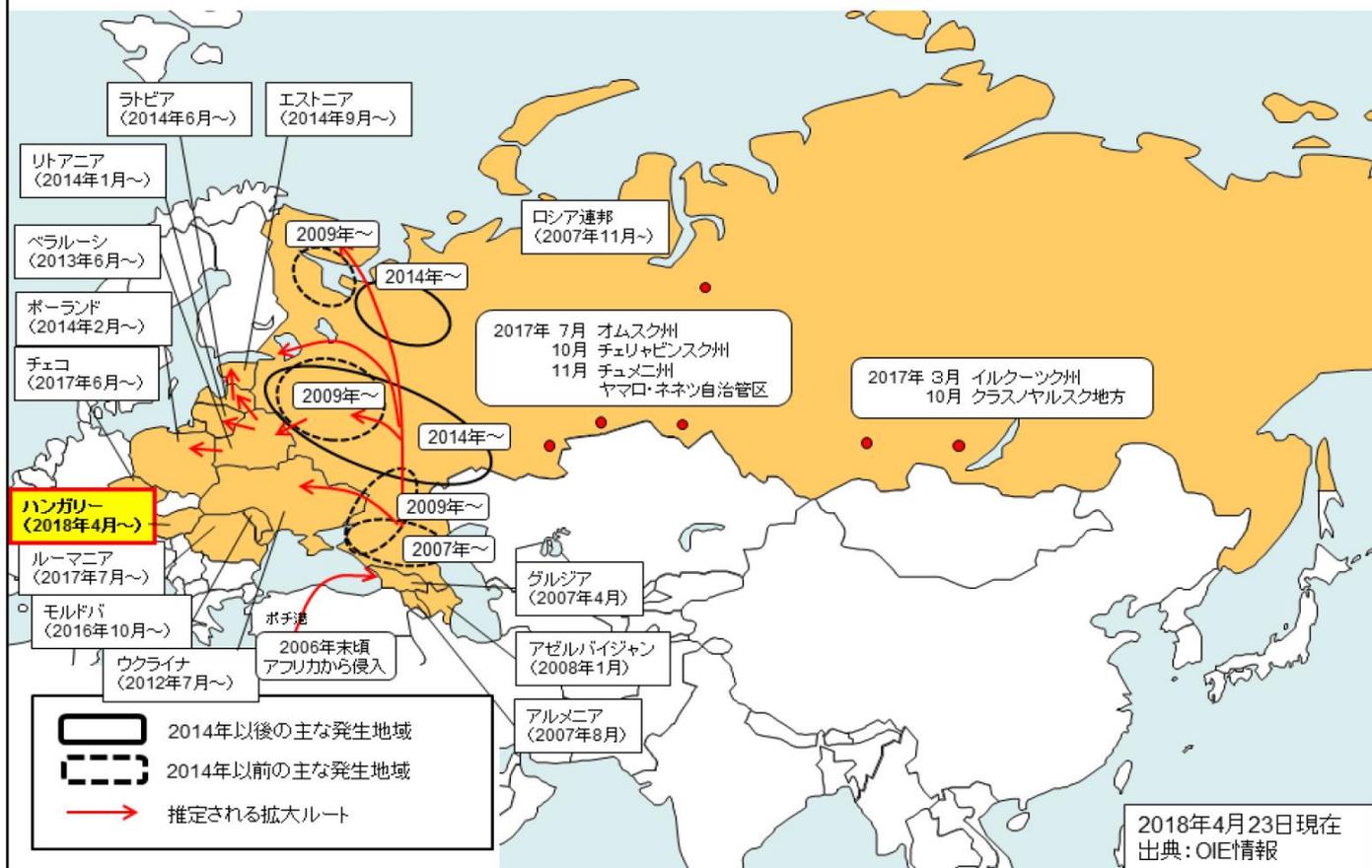
家畜に異状が見られたら、
ただちに青森家畜保健衛生所にご連絡ください
電話：017-764-1744
夜間・休日：090-2274-0474

ハンガリーでアフリカ豚コレラの発生を確認!

2007年にアフリカ豚コレラが確認されて以降、その発生が継続しており、発生地域が徐々に拡大しています。2017年には、ロシアのイルクーツク州やクラスノヤルスク地方のモンゴルとの国境付近で本病の発生が確認された他、2018年4月に、ハンガリーでも本病の発生が初めて確認されました!

我が国に本病が侵入するリスクが更に高まっています!!

欧州・ロシアにおけるアフリカ豚コレラの発生拡大状況(2007年～)



アフリカ豚コレラの症状

農林水産省 HP

病状は多岐に渡り、甚急性、急性、亜急性、慢性の症状を示す。甚急性では突然死亡、急性では発熱(40～42℃)、食欲不振、粘血便、チアノーゼ等を呈し、死亡率は100%に近い。



元気消失、チアノーゼ、皮下出血などを呈する豚

写真出典: USDA APHIS Plum Island Animal Disease Center